



ごあいさつ

理事長 杉本 宗之

平素より、私ども「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年もここにディスクロージャー誌「2022四国ろうきんの現況」をお届けします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。「四国ろうきん」は存続金庫である愛媛県労働金庫が1952年に誕生してちょうど70年目を迎えました。この間の激変する経済環境の中で着実に成果をあげてくることができましたのも、会員各位をはじめ関係団体のご指導ご支援によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

2021年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けた1年でございました。感染拡大は全世界的に経済活動や人々に大きな影響を及ぼし、特に勤労者の雇用や所得環境に深刻な影響を与えました。私どもはそのような混乱の中ではございましたが、10年後のあるべき「四国ろうきん」を「未来起点」に策定した「第8期中期経営計画」をスタートさせました。掲げた「デジタル革命下での経営改革」と「理念経営の実践による役割発揮宣言」の2大テーマの下、勤労者の生活向上という「理念経営の実現」や「金融包摂」による事業存続の礎を築く施策を積極的に行って参りました。

その結果、収支面では、経常利益は10億88百万円（計画比+80百万円）、当期純利益は7億74百万円（計画比+82百万円）と、コロナ禍や低金利環境という厳しい状況下においても尚、計画を達成することができました。なお、自己資本比率は、10.38%となりました。

2022年度は、「第8期中期経営3か年計画」の2年目という重要な年度になります。10年後のあるべき姿とは、「高付加価値・お役立ち・提案営業」を充実させ独自のブランド力を確立する事によって会員やお客様に信頼され選択され愛される「四国ろうきん」となることです。その為にも「金融包摂」「持続可能」そして「コンプライアンス経営の徹底」というキーワードに「変えなければならないもの」と「変えてはいけないもの」を明確にして計画達成に取り組んでまいります。

コロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻等で世の中の混乱は今暫く続く事でしょう。「四国ろうきん」はこのように激変する社会環境にもしっかりと対応し、掲げた目標の達成を目指します。今こそ「四国ろうきん」の社会的存在意義を自覚し、「協同組織福祉金融機関」としての矜持を胸にその使命を果たして行く所存でございます。役職員一丸となってこの難局を乗り切る覚悟でございますので、どうぞ会員の皆様方におかれましても、これまで以上のご理解とご支援をお願いするものでございます。

このディスクロージャー誌は、「四国ろうきん」の機能や役割、そして2021年度の業況等を取りまとめたものです。本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2022年7月